

9月1日は防災の日

大正12年（1923年）9月1日に発生した「関東大震災」に由来するもので、一人ひとりが災害について認識を深め、これに対処する心構えをするために創設されました。この日を含む1週間は「防災週間」と定められており、毎年各地で防災訓練や啓発行事などが実施されています。



実際の災害時における被害の軽減には「自助・共助・公助」が不可欠となります。3つの連携が円滑なほど、災害時における被害が軽減できると言われています。

今回は、それぞれのポイントをご紹介しますので、防災の日をきっかけとして、ご家族や周囲の皆さんで防災について一緒に考えてみませんか。

3つの「助」が円滑に機能することによって、災害時の被害の軽減が図られます！

自助

自ら（家族も含む）の命は自らが守ること、または備えること

公助

国や地方公共団体・ライフラインを支える各社による応急・復旧対策活動

共助

近隣が互いに助け合って地域を守ること、または備えること

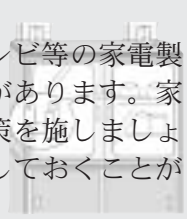
◆南幌町は水害の歴史を持つ町◆



ご家庭での備え【自助】

Point①

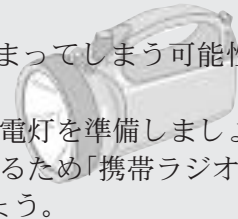
家の中にある食器棚、タンス、テレビ等の家電製品は、地震時には凶器に変わることがあります。家具類を固定して、転倒・落下防止対策を施しましょう。特に、寝室は安全な空間を確保しておくことが大切です。



Point②

災害時には電力の供給が止まってしまう可能性があります。

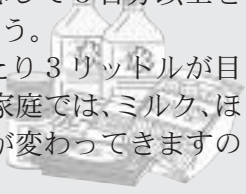
明かりを確保するため、懐中電灯を準備しましょう。また、正しい情報を入手するため「携帯ラジオ」も忘れずに準備しておきましょう。



Point③

食料や飲料水は家族構成に応じて3日以上をご家庭内で備蓄しておきましょう。

飲料水は大人一人で1日あたり3リットルが目安です。また、乳幼児がいるご家庭では、ミルク、ほ乳瓶、離乳食など、必要なものが変わってきますので注意が必要です。



Point④

災害時は常に家族全員が一緒にいるとは限りません。日頃から避難場所や避難経路、家族が離れ離れになった場合の集合場所や連絡方法を家族で話し合っておくことが必要です。



地域での取り組み【共助】

実際の災害時においては、その被害が大きければ大きいほど、支援する側の機能が失われ、支援する側が被災によって援護を要する立場となってしまう危険性があります。

日頃から地域における様々な行事に参加し、近隣の人との「繋がり」を確保しながら、災害時には地域全体で「的確に対処できるように」安全対策を検討する必要があります。

地域のみなさんと協力して、地域を守る備えと行動を共助と呼びます。

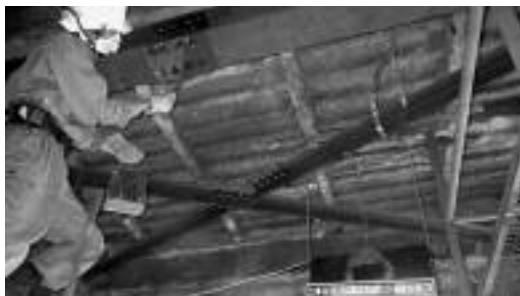
南幌町としての取り組み【公助】

①公共施設の耐震化

公共施設の耐震化を計画的に行うことで、災害に強いまちづくりを目指しています。



生涯学習センター（旧南幌小学校）
（外壁耐震工事）



改善センター
（天井耐震工事の様子）

②災害備蓄品整備

町では災害備蓄品整備計画に基づき、備蓄用消耗品や備品を計画的に購入することで、大規模災害時の応急対応に備える取り組みを行っています。

町での備蓄品整備状況については、町ホームページで公表しています。

～町防災担当（総務課）より～

災害は一つとして同じものではなく、残念ながら自然災害を人間の力で食い止めることはできません。東日本大震災から3年半が過ぎ、その間も様々な災害が全国的に発生しています。「災害を“ひとごと”と考えてはいけません」。わたしたちも常に災害の危険と隣り合わせで生活しています。

日頃より災害発生時の実効性を高めることも重要ですが、いざというとき、お互いに助け合う「お互い様」という意識を持つことが大切です。

